

築40年、木造宿泊施設を新旧の記憶を紡ぐデザインによって再生

既存の建物は、これまでの典型的な研修施設がそうであったように、**すべての生活が集団で行われることを前提とした計画**でした。
 しかし、一人一人の自主性を育むうえでは、こうした集団での活動を行う場所だけでなく、**個人で使用することができる場所も必要**だと考えます。
 こうした場所を施設の中にバランスよく計画していくことが**自主性と協調性の両立、そして社会性への理解を高めていくことのできる施設に繋がる**のではないのでしょうか。
 さらに、これまでの建物は、豊かな自然の中にいるはずなのに、外に出ることが不便な億劫さ、この自然との間に身体的な距離がある矛盾を、中庭を取り込んだ計画をすることで解決します。

自然の中で新鮮な空気に触れ、**森全体がこの研修施設の一部に感じる**ことのできる**ダイナミックな生活**、個性豊かで活気に満ち溢れた歓声が飛び交う、かけがえのない**青春の一時期を過ごすのにふさわしい山荘**となるでしょう。

長 寿 命 資材の継続利用

既存建物の継続利用可能な部分を最大限利用し、修繕が必要な箇所を現代の技術によって再生していくことで、建築的な価値を高め、その長寿命化を図る。

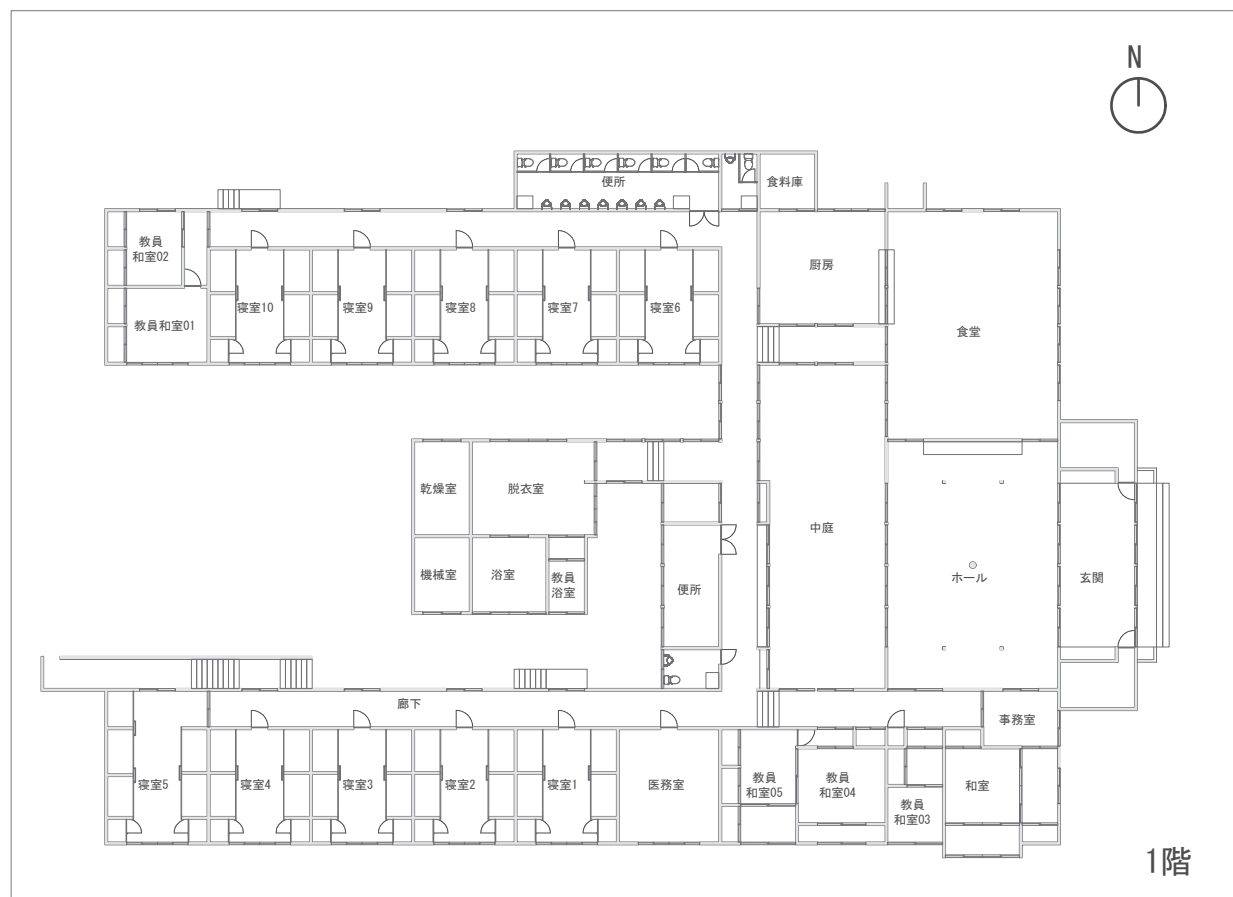
省 資 源・循 環 再生木による中庭

木粉をABS樹脂で固めた再生木をウッドデッキに採用、リサイクル品の長所を生かした製品を採用することでメンテナンスフリーを実現。

継 承 紡ぐデザイン

オリジナルを参考にリファインを行いつつ、これまでに足りなかった機能を補填していくように計画することで、これから求められる施設に紡いでいく。

改修前平面図



改修後平面図

